

# 漢字を読む力・書く力，計算する力を高めるために

浜松市立北小学校 鈴木 眞佐子

## 1. 目的

子どもたちに確かな学力を身に付けるために，自ら学び自ら考える力をはぐくむことが大切と考える。そのためには，物事に主体的にかかわったり，よりよい考えを創り出したりする喜びを味わう学習を追究することが重要である。それには，まず，子どもたちに学習している内容が「分かった」「できた」と言える力が必要となる。その基盤となる力は，国語では漢字を読む力・書く力が，算数では計算する力と考え，子どもたちにこれらの力を着実に身に付けて高めていけば，主体的な学習が実現できるだろうと考えた。そこで，データを蓄積でき，子どもたちのつまずきにに応じて一人一人違うプリントが作成されるという特徴を持つ練習学習ソフト（Bunkei Softpia）を活用した効果的な指導法を追究することにした。

## 2. 推進方法

対象学年は，2学年（算数科）・4学年（北の子学習（総合的な学習の時間））。

本校は，平成13年度から平成15年度まで文科省・総務省による「学校インターネット事業」の指定を受けた。そのために，情報活用能力をはぐくむ学習活動の在り方や教科の中でのITを活用した学習活動の在り方を追究してきた。本実践は，その中の1つである。実践を深く追究するために，推進となる学年やクラスを設定して取り組み，他学年などへ広めるようにした。

また，この実践授業については，平成16年1月27日（火）に「浜松市インターネット事業報告会」で授業公開し，浜松市内外の学校へ広める機会とした。

## 3. 学習の流れの例

－4年 北の子学習（総合的な学習の時間）より－

(1) 単元別プリントを行う。（診断テスト）

- ・自分の到達度，つまずきを知る。
- ・自分の願い，課題を持つ。

(2) 学習計画を立てる。

- ・学習の見通しを持つ。

(3) 学習ソフトを活用した学習を行う。

- ・学習計画にそって，漢字・計算コースに分かれて，少人数で学習する。

（コース変更可）

- ・定着が十分な子は，発展プリントに取り組む。

(4) 練習した成果を評価する単元別プリントを行う。（総括的テスト）

- ・自分の伸びをつかむ。

(5) 学習を振り返る。

- ・学習の成果を振り返り，練習学習のよさをじっくり味わう。
- ・もっと練習しようという意欲を持つ。

